

## 温室効果ガス削減計画

### 1 事業の概要

(1) 事業所の名称

山陽エア・ケミカルズ株式会社 大竹工場

(2) 事業所の所在地

広島県大竹市東栄二丁目1番21号

(3) 業種

圧縮ガス・液化ガス製造業 1623

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

### 2 計画の期間

本計画の期間は、平成30年度を基準年度とし、令和元年度から令和5年度までの5年間とする。

### 3 計画の基本的な方向

経営理念は

「山陽エア・ケミカルズの設立目的は、顧客に対して高品質の製品を安価に安定して供給することである」であり、従来より製品を安価に供給するためにエネルギー使用合理化に取り組んでいます。

電力事業者から購入する電気エネルギーがCO2排出のほぼ100%を占めており、エネルギー原単位を年間1%向上させることを目標に省エネルギーに取り組んでいます。すなわちエネルギー原単位の向上分がCO2削減になります。

現在、当社は空気分離装置1基を稼働していますが、令和2年9月末より空気分離装置2基の稼働となります。当社が装置を更新した後、客先の老朽化した空気分離装置を停止します。令和2年9月以降、当社の電力量は増加しCO2も連動し増加しますが、空気分離装置のエネルギー消費の合計はこれまでより減少します。

#### 4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

##### 【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	
	基準年度	直近年度
	平成30年度	平成30年度
二酸化炭素	26,510	26,510

##### 【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	
	基準年度	直近年度
	平成 年度	平成 年度
二酸化炭素		

##### 【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	
	基準年度	直近年度
	平成 年度	平成 年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス ( HFC PFC SF6 NF3 )		

## 5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO<sub>2</sub>)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)		削減目標		目標年度 (平成 年度)	
	排出量 (a)		削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)	
エネルギー起源CO2						0
非エネルギー起源CO2						0
メタン						0
一酸化二窒素						0
その他 温室効果ガス						0
温室効果ガス 実排出量総計						0
温室効果ガス みなし排出量			-			0
目標設定の考え方						

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

千Nm<sup>3</sup>

単位：排出量(t-CO<sub>2</sub>)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成30年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和5年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2	26,510	74,310	0.360	19.4	37,374	127,230	0.290
非エネルギー起源CO2				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量				#VALUE!			
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-	9,911	-43.6	-	-	14,232
目標設定の考え方	現在は空気分離装置1基を稼働するが、令和2年9月末より空気分離装置2基稼働となる。当社が装置を更新後、客先の老朽化した空気分離装置を停止し共同で省エネルギーに取り組む。						

※ 削減率(d) =  $\{(c) - (g)\} / (c) \times 100$     原単位(c) = (a)/(b)    原単位見込(g) = (e)/(f)

## 6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

### ○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1	電力使用量の低減	電気使用量を1.0%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転モード移行回数を削減</li> <li>・空調削減</li> </ul>
2			
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

### ○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1		
2		
3		

### ○ その他の取組み

	項 目	数値目標	具体的な取組み
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

## 7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

### (1) 推進・点検体制

エネルギー管理統括者	代表取締役	吉岡 昭博
エネルギー管理企画推進者	取締役	長濱 健太郎
エネルギー管理者	広島事務所長	米田 仁福
	大竹製造課 副課長	村岡 健司
・品質に関わる会議として	ISO品質管理委員会	
・生産に関わる会議として	生産計画会議	
	業務部会（ユーザーへの需要に応じた生産計画の効率化を検討）	

### (2) 実施状況の点検・評価

推進、点検体制により年度予算、省エネルギー計画を策定。  
毎月の原単位管理で、問題点・状況を把握して継続的な向上を図る。

### (3) 計画書等の公表

山陽エア・ケミカルズ株式会社 大竹工場に備え付けて閲覧する。